

令和5年3月吉日

「燦剣会」だより No.19

新型コロナウイルス感染が未だにマスコミを賑わすとともに、ウクライナ情勢や円安による物価高など、世の中の見通しは厳しい状況にあります。会員の皆様方は如何お過ごしでしょうか。ご健康に十分ご留意して頂きたいと思っております。

このような状況ですので総会も3年続けて中止となり、燦剣会や現役部員の活動も十分に行えていませんが、可能な範囲で活動を行ってまいりますので、会員の皆様方のご協力をお願い致します。

原稿のご協力を頂いた会員におかれましては、この場をお借りしてお礼申し上げます。

ご挨拶

燦剣会会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

2019年12月初旬に中国武漢で発生した新型コロナは、2020年1月15日に日本で初めて感染が確認されました。2月には大型客船ダイヤモンドプリンセス号で7112名の集団感染が判明。それから感染は全国に広がっていきました。何度かの波を繰り返し現在第8波。感染者数は減る傾向ですが、それでも約60,000人の感染者（1月26日現在）が発表されています。4年目のコロナ禍で国民の生活は大きく変化しました。それに加えてロシアのウクライナ侵攻。この1年間で消費者物価（生鮮食品を除く）の前年比は3%台後半に推移しました。エネルギー、食料品、耐久財の値上がりによって国民の生活は苦しくなっています。政府は新型コロナの感染症法上の位置づけを2類相当から5類に、5月8日を目途に移行する決定をしました。早く束縛のない以前の生活に戻ることを期待しています。

さて、コロナ禍も深刻ですが、そのために稽古もできず、試合もない状態が続いて、現役の剣道部員が激減しています。燦剣会としてもコロナ禍で現役部員との交流も途絶えています。

今年は、毎年8月に開催されていたOB・OGと現役部員との交歓会が開催できるよう強く望みます。また、燦剣会総会もコロナ禍で中止せざるを得ない状況が続いていましたが、今年は是非開催したいと思っております。燦剣会会員の皆様におかれましても、まだまだ基本的な感染対策を十分にいただき、ご自愛くださいますようお願い申し上げます。

何年か前に現役部員が急減し、神戸キャンパスの剣道部の存続が危うくなった際、姫路キャンパスの現役部員の力を借りて、燦剣会有志で大学へ新入生勧誘に行きました。今年はそれができるかどうか分かりませんが、以前のように部員が戻ってくることを切に願っております。

最後になりましたが、燦剣会会員の皆様方の益々のご発展とご健勝、新型コロナの収束を祈念してご挨拶とさせていただきます。

燦剣会会長 渡田哲夫

塚越名誉会長を偲んで

去る2月6日、塚越名誉会長がご逝去されました。

塚越名誉会長におかれましては、神戸商科大学OB・OG会である剣水会組織の基盤を確立されるとともに、神戸商科大学、姫路工業大学、兵庫県立看護大学の三大学が統合された時には、「大学統合により友人が増えることは良いこと。これから卒業生が一緒になって交友を深めるとともに現役部員を応援しよう」と言われ、新たな剣道部卒業生の集まりを、三大学統合に因み「燦（三）剣会」と命名されました。

また、兵庫県立大学剣道部だけでなく、兵庫学生剣道連盟副会長も歴任され、学生剣道の発展にも寄与されました。

塚越名誉会長のご逝去を謹んでお悔やみ申し上げるとともに、塚越名誉会長と一緒に剣道部で汗を流された先輩方より追悼文を頂きましたので掲載させていただきます。

（ 追悼文 ）

剣道部OB会 前会長 塚越光男 氏を偲んで

神戸商科大（昭和38年卒業） 松本武城

塚越光男氏との出会いは私が昭和34年4月の入学した時でした。入学式後にクラブ活動を選ぶコースがあるのですが、中学校では野球部、高校では大学受験準備があるから運動部は避けてプラスバンドに入りクラリネットを担当していました。大学は運動部だと決めており、剣道をやりたいと思っていたから囲碁部の勧誘を受けましたが親父から囲碁麻雀は徹夜になるから止めとけと言われていたから、そこは素通りで空手部の奥の剣道部に直行しました。そこで先輩の一人として塚越氏に会う最初ですが、剣道に関しては初心者の中にしても彼が大先輩に見え、その後通じての実態は心技体はもちろんその信念、哲学、指導力は群を抜いて素晴らしく、神戸商科大学時代から兵庫県立大学となっても、OB活動並びに現役生支援に多大なる尽力をいただいたことは皆が認めるところです。

①彼曰く授業には出なくても部室には出る。私同調しました。一般教養科目は高校で学んだ科目が多く、繰り返し感があり、また先生の口述ノートをとることが多く試験前が大変であったが、

②彼曰く自分は運動能力は良いとは言えずその分毎日努力した。高校時代から。私同調しました。私は現在82歳ですが65歳から詩吟、日本舞踊、琴、三味線とやり、70才から太極拳をやっていますが4年前から明石公園で毎日やり、ストレッチも極力毎日やり、太極拳の真髓をつかんだと見えて体力的には成長を感じるぐらいの柔軟性を体得して元気そのものです。太極拳をやれているのは大学4年間剣道で鍛えられた経験あったからにほかな

りません。

平成の時代なつたころ、塚越先輩が君は囲碁が強いそうだから友達に強い人がおるから一度手合わせしてみないかと提案があり、気軽るに引き受け塚越さんも立会いの下にやりました。布石の段階で作り碁で最後に全部取り上げる手口があるのですがそれにまんまとはまってくれて勝ちましたが、できたこっちの方がびっくりで相手のある実践で起こりえないことでもあります。これに気をよくして各段級位に昇段を目指す講座を受けて進められる本を読んだりしてどこまでいけるかためてみました。結果、平成十八年十二月二十四日付けで七段の免許状を取得しました。

最後に、昨今世相は真逆に転向しています。これでは地球が持ちません。どうか塚越先輩にお願いいたします。あちらには今の状況を理解できない人が多くおられることと思います。話題に事欠くことはないでしょう。私はもう少しおよびがあるまで、頑張り世の中がまともになる傾向をみとどけ、燦剣会のことも報告できることを楽しみにしております。安らかにお休みください。

塚越光男兄のご逝去を悼む

神戸商科大（昭和38年卒業） 竹内 裕

これが最後の連絡になるかも知れない、というメールを塚越兄からいただいたのは昨年12月のことであった。年が明けてから電話を架けた際に「一日にバナナ1本と何かを少々食べるのが精一杯だ」という話を聞いて心を痛めていたが、遂に2月の半ばに燦剣会より訃報の知らせが届いた。覚悟していたこととはいえ、深い寂寥感と無念さを禁じ得ない。兄のご逝去に謹んで哀悼の意を表すると共に、衷心よりご冥福をお祈り申し上げる次第である。

周知のとおり兄は神戸商大在学中も卒業後も剣道部にとって余人をもって代えがたい存在であったことは紛れもない事実である。私は3年間にわたって兄と稽古を共にする幸運に恵まれたが、全日本学生剣道選手権団体戦に初めて出場することができたのは昭和36年（1961年）で兄が4回生の時であった。対戦相手の国学院大学にはまるで歯が立たなかったが、剣道部としての確固たる礎となったことは間違いない。

振り返ってみると、戦後GHQによって柔剣道は敵性スポーツであるという理由によって禁止されていた時期があった。そうした時代的な背景もあり、商大剣道部が体をなし始めたのは昭和30年代半ばからであった。そうした極めて弱体であった剣道部を全日本学生剣道選手権に出場できるまでに育て上げた中心的人物が塚越兄であったことは紛れもな

い事実だと言って差し支えない。そればかりではなく卒業後も剣水会、燦剣会の会長として永年にわたり現役生の支援に多大の尽力をされたことも周知の事実である。

このように塚越兄は剣道の面でも大きな足跡を残されているが、ビジネスパーソンとしても当然のことながらかくかくたる実績を挙げておられる。私は今日に至るまで兄とはコンスタントコミュニケーションを図る機会に恵まれたが、強く印象に残っていることのひとつをご紹介しますことにしたい。それは仕事をする場においても、人として生きていくうえでも最も大切なことは人間力を高めていくことだ、と強く主張されていたことである。私も仕事上の必要があって能力とは何かについて長年にわたり考え続けてきたが、その核心に人間力があるとするについては通底するものがあつた。また兄は単に言辞を弄するだけではなく、現実生涯を通じてご自身の人間力をかなり高いレベルにまで高められたと私は確信している。

こうした数々の大きな足跡を残された偉大な先輩のご逝去を今一度度悼むと共に、心底よりご冥福をお祈り申し上げ哀悼の誠を捧げたい。

塚越キャプテンを偲んで

神戸商科大(昭和38年卒業) 藤川 遵一

同期の竹内さんから昨年末に塚越先輩よりこれが最後のメールに成るかもしれないとの内容のメールが有り、その後竹内さんが塚越さんと電話でお話した内容の報告を貰いました。報告では、先輩はかなり厳しい健康状態で、ご本人はすっかり達観しており、自分は先にあちらに行くが、その内あちらで皆さんとお会いしようと言って電話での会話が終わったとの事でした。

2月13日に田中 聡さんから2月6日に塚越先輩がお亡くなりになったとのメールを受け取りました。

覚悟はしておりましたが、次々と親しい人達が亡くなって行くのは齢80余歳を過ぎた身には大変厳しく寂しい事です。

塚越先輩とは令和元年10月の「老房」で行われた関西燦剣会でお会いしたのが最後でした。大学では私の1年先輩のキャプテンとして剣道は勿論の事、お酒、麻雀と猛特訓を受けました。特に麻雀ではアルバイトの稼ぎの殆どを献上させられた記憶が有ります。

勿論、先輩の剣道にかける情熱は尊敬に値するものでして、正しい剣道、王道の剣道をせよと言うのが口癖で、日夜猛特訓を受けました。

その成果として私が4回生の時に初めて関西地区より全国大会に出場する事が出来ました。結果は残念ながら九段武道館の雰囲気にも飲まれて1回戦敗退でしたが一つの歴史を作れました事は塚越キャプテンの指導の賜物と感謝しております。

現役時代は黎明期であった神戸商科大学剣道部の組織をしっかりしたものを作り上げ、卒業されてからは神戸商科大学、兵庫県立大学剣道部の発展、後輩の育成に多大な貢献をされました事は皆さんご存じの通りです。

私は就職してから会社退任する迄東京勤務でしたので直接塚越さんのお手伝いは出来ませんが、関東地区OB会の基礎作りに参画させていただきました。

卒業後はお互いに関西、関東出張の折にお会いして夜遅く迄学生時代の事、OB会の事など話し合ったものです。

そのお人柄のせいで塚越先輩の周りにはいつも人が集まってきました。

塚越先輩の事ですから、さっそくあちらでも皆さんを集めて剣道、酒盛り、麻雀と賑やかに過ごす事でしょう。

年齢的にいずれ近いうちにこちらもあちらに参らねばなりません、せめて三途の川の渡り賃は今迄麻雀で支払った分から塚越先輩に支払って貰わねば。

合 掌